



DE10sx EF58K

KATO HO EF58 対応 サウンドデコーダ

製品添付版は、縮小印刷しております。弊社 HP で通常版のダウンロードが可能です。

付属品	1. スピーカ、LED ハーネス(電球色 LED*2,赤色 LED*4 接続済) * 2 2. 絶縁ワッシャー 0.3mm * 2 , 0.6mm * 2 3. 絶縁収縮チューブ
-----	---

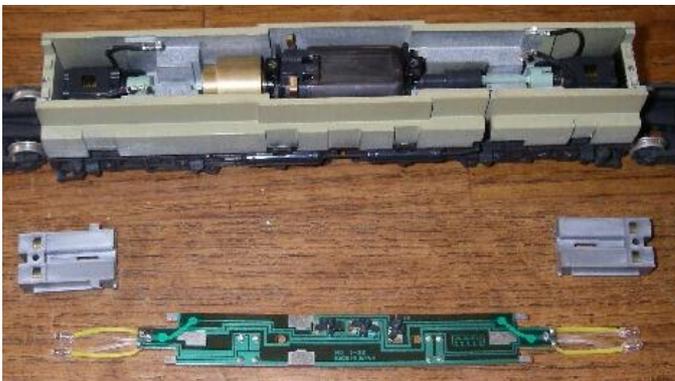
1. デコーダ搭載方法

新旧製品とも、完成形は以下のようになります。



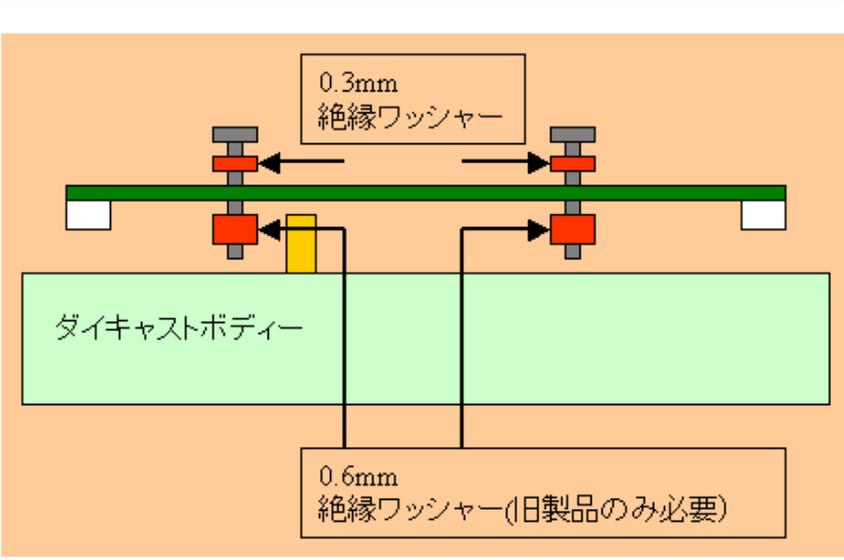
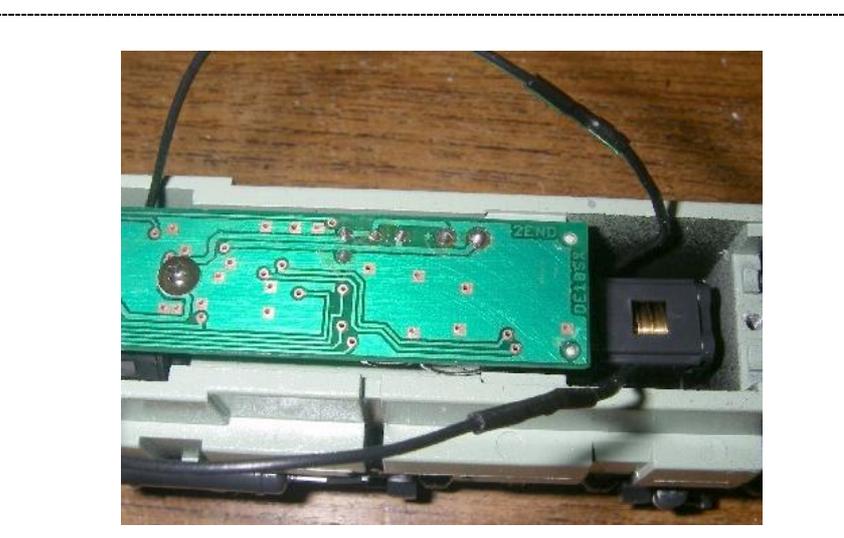
新型製品を分解した様子です

ダイキャストボディは旧製品と変更はありません。照明基盤が **LED** 化されています。



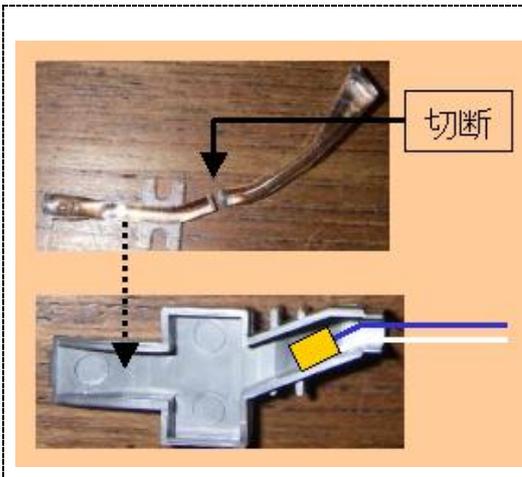
旧型製品を分解した様子です

2. デコーダ取付け

	<p>デコーダの組付けはライト基板の取付けに使用されているものをそのまま使います。モータリードは、基板のモータ出力穴に差込みます。</p> <p>旧製品では、基板の高さを調節するために、0.6mm ワッシャーを取り付けます。</p>
	<p>デコーダから出ている集電ケーブルと、ギヤボックス本体からの集電ケーブルを半田付けで接続して、絶縁収縮チューブをかぶせます。</p> <p>あらかじめ、チューブをかぶせて作業しなければなりません。</p>

3. ヘッドライト取付け

	<p>運転室を分解すると、ヘッドライト導光パーツが出てきます。</p>
---	-------------------------------------



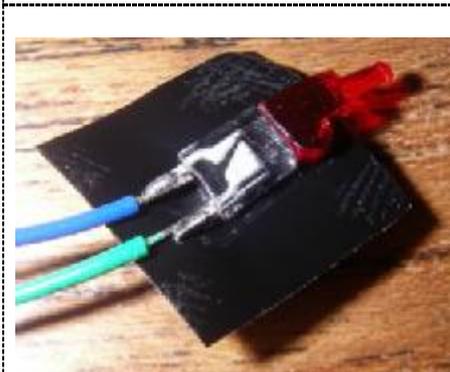
導光パーツをさらに分解して、切断し、導光パーツが収まっている箱に、電球色 **LED** と一緒にはめこみます。

4. テールライト取付け



テールライト導光パーツを切断して、赤色 **LED** (透明) と遮光テープを使用して固定します。

遮光テープは、スピーカ梱包に使用しているものを使うか、別途ご購入ください。
モデルズイモンにて購入可能です。
(8 4 2 2 B ポリエステルテープ)



運転室を再度組み立てて、テールライトをはめこみ遮光テープで固定します。

5.スピーカー取付け

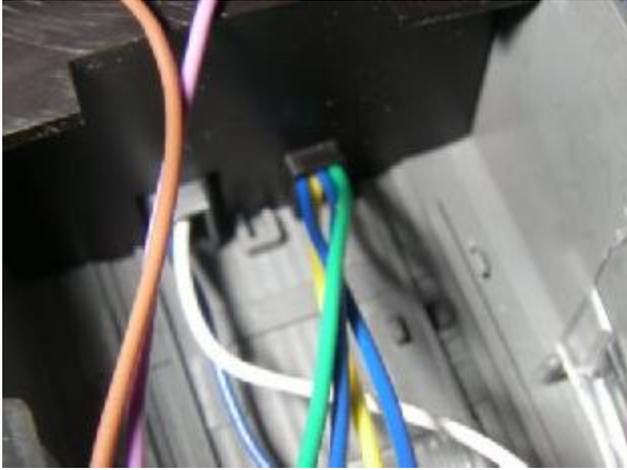


スピーカー取付け位置のセンターをケガキます。後ろ側から14mmの左右の中心をセンターとしてケガキます。座繰りカッター20mm（ホームセンターで¥700-程度）で穴あけを行います。ドリルドライバーかハンドボール等で加工します。加工材を厳重に固定する必要があります。くれぐれも、怪我に気をつけて、慎重に行ってください。中心に下穴をあけてから、作業を進めてもよいでしょう。



スピーカーをはめ込み瞬間接着剤を回りに染みこませて固定します。隙間があると音が回り込んで効率が悪くなり小さくなります。内側はツライチになるようにしてください。スピーカーがはみ出すと配線等と干渉し、ビビリが発生する可能性があります。

6.最終組み立て



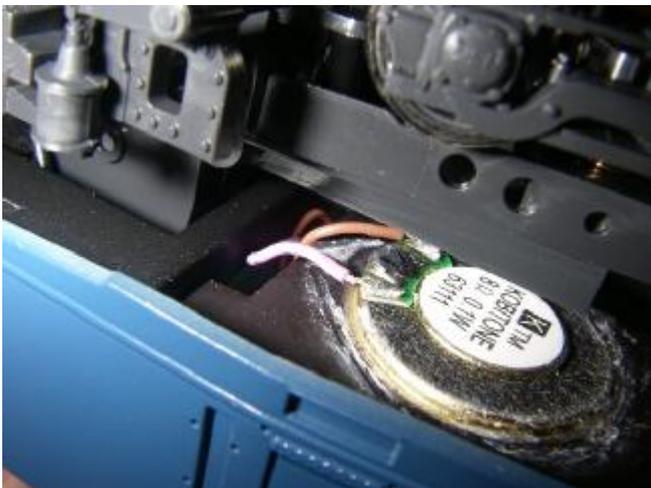
スピーカを固定した黒いパーツをはめ込みます。車端部とドア裏のあたりの突起でちゃんとハマっているか確認してください

ケーブルの引き出しは画像のように、写真の右側からテールランプ用を引き出します



プラ本体の方向に注意してください。運転室すぐ後ろの窓のプラスチックパーツが**1END**側と**2END**側で大きさが異なります。

コネクタの上下を間違えないようにこの状態でコネクタに無理な力をかけないようにはめます



両側をはめてからケーブルを黒いスピーカを固定したパーツのかき取り部分にはめ込むように組み立てます。

7. 運転方法

DCC 運転	ファンクション番号は自由に割付変更可能です
<ol style="list-style-type: none">F6 ボタンで、ブローワーが始動します。F0 ボタンで、前照灯が点灯します。機関車が停止しているときは、減光状態になっています。単機運転であれば、F1 ボタンでテールライトが点灯します。もし入換標識灯にしたい場合には、F7 ボタンを押します。これで運転準備ができました。F2 のボタンで短いホイッスルになります。もし、F3 が ON の状態であればロングホイッスルが、F2 を押している間なり続けます。スロットルを上げます。前照灯が明るくなるとともに、ブレーキエアが抜ける音がします。吊り掛け音とともに加速を始めます。速度が上がるとともに吊り掛け音も変化していきます。所定の速度になったところで、スロットルを少し戻します。吊り掛け音が途切れるとともに、惰行運転状態となります。実車であれば徐々速度が落ちてくるのですが、デコーダの機能により一定の速度で走り続けますから、少しずつスロットルを絞っていくと実感的になります。駅に進入したときなどは、F4 ボタンで、一時的に減灯状態にすることができます。再加速をするために、スロットルを少し上げます。再度、吊り掛け音が力行状態になります。十分速度を落として、停車駅に進入します。F12 ボタンで、単弁のブレーキエアの排気音が出ます。停止直前になると、ブレーキのスキル音が鳴り始め、完全停車となります。ときどき、コンプレッサーが動作します。連結操作をする場合には、客車や貨車の直前(枕木 1.5 本分程度)で一旦停車します。F5 ボタンを押すと、自動的に枕木 1.5 本分程度(設定変更可能)移動して、連結音とともに停止します。	
ANALOG 運転	
<ol style="list-style-type: none">約 7V で、ブローワーが起動し、ヘッドライト、テールライトが点灯します。約 8V でブレーキ排気音とともに、ホイッスルが鳴るとともに、走行開始いたします。約 7V で停止いたします。デコーダは、線路電圧を測定して、その電圧によって、速度を決定しますので、下り勾配の時も速度が抑制されます。また、低速でも十分な牽引力を発揮します。走行開始電圧と走行停止電圧が異なるのは、起動時の線路電圧の低下による誤作動を回避するためです。約 6.5V-7V の範囲に電圧を落とすことにより、ブレーキ音とともに、停止させることが出来ます。パワーパックは、十分容量のある純直流パワーパックを使用することで性能を発揮することが出来ます。パルス式や半波整流式のパワーパックの場合にはパワーパックとの相性により、走行が不安定になる、あるいは逆方向に走る可能性があります。	

8. サポート

初期不良およびその後の修理に関しましては、お買い上げ販売店にご相談ください。

その他、ご質問及び不明な点は、shuhei@snjpn.com まで、電子メールにてお受けいたします。

なお、

〒212-0055

神奈川県川崎市幸区南加瀬 4-5-28-205



永末システム事務所

(shuhei@snjpn.com)